

インターンシップ参加者の感想です。(ご本人の了承を得て掲載させていただきます)

私は学校のカリキュラム上精神科領域の実習がありませんでした。今回初めて「精神科病棟」がどのようなところなのか、見させていただきました。想像していたよりも明るく、開放的な印象を受けました。また看護師さんやケアスタッフさんはとても穏やかで、患者さんの人権を重視し、患者さんのことをとても大切にしていると感じました。レクやSST、OTにも参加させていただき、社会生活が阻害されがちな精神疾患を抱える患者さんにとって、社会とのつながりを感じられる機会、社会生活に適応するための訓練がとても重要な意味を持っていると感じました。また、長期入院されている方にとっては、気分転換を図る機会としても有効だと思いました。

患者さんとお話する機会をたくさんいただきました。笑顔を交えて話して下さる患者さんにも、見ただけでは分からないような苦しさ(幻聴・幻覚など)があったり、薬の効果を確信する事が出来ない不安感症状悪化を繰り返すことに対するあきらめ、焦り等、たくさんのつらさを感じました。精神疾患を持った患者さんが、地域社会で生活できるようになるには、時間がかかるだろうということも感じ、課題はたくさんあるだろうと思いました。(家族や病院だけでは限界がある気がします)

その一方で、「～ができるようになりたい」「早く退院して～したい」等、目標に目を向けてチャレンジしている患者さんの姿や言葉からたくさんの元気をいただきました。

インターンシップ最終日、患者さんからとても大切なメッセージをいただきました。

「看護師さんになるんだったら、今の、患者を思いやる気持ちを何年たっても忘れんとってほしい」

この言葉を聞いて、スタッフと患者さんが対等であることの必要性を感じましたし、私自身の、2週間のかわりを振り返るきっかけにもなりました。